

18/9/21 名古屋市議会本会議（名古屋市民オンブズマンによる自動文字起こしアプリによる文字起こし）

次に、浅井正仁君にお許しいたします。

浅井正仁君：通告に従い、順次質問させていただきたいのはやまやまですが、名古屋城の整備について、(1)の教育関係分と、(2)については割愛させていただきます。

続きまして、名古屋城の整備について質問させていただきます。

二元代表制の一方の当事者として議会の責任を果たすために、市民の税金を無駄にしないために、6月議会に引き続き質問をさせていただきます。

6月議会では、指切りげんまんの歌を披露させていただきましたが、今回はとおりゃんせととおりゃんせここはどこのお〇〇〇という歌を披露させていただきます。

さて、この1年間、名古屋城に関する質問は議案案件になると言っていました、今回は議案外質問になりました。スケジュールでいくと2022年に完成に間に合わせるためには9月市会には素屋根工事の補正予算が提案されるはずでした。このことが意味するのは10月の文化庁の文化審議会には間に合わないと言うほかありません。

そこで、10月の文化審議会の審議はないという理解で良いのかお尋ねします。

そして、今すぐ10月にかけてと言うならば、スケジュールどんなスケジュールで間に合わせるのか、根拠を教えてください。頑張るという精神論はもう通用しません。10月は目の前だからです。

次に6月市会で副市長が間に合うと力説していた10月開催の文化庁の文化審議会へのエントリーがなかった場合、完成時期2022年を見直さないのであれば、来年5月の文化審議会がデッドラインとなると思われますが、文化審議会が当初のスケジュールより半年遅れても完成は2022年12月には間に合うのか間に合わないのか、間に合うというならば、竹中工務店からその回答を得ているのか。広沢副市長にお尋ねします。

これで1回目の質問を終わります。

広沢副市長：天守閣木造復元の今後の見通しについて、2点のお尋ねをいただきました。

初めに素屋根等仮設工事の補正予算についてでございます。

文化庁に10月の文化審議会に向けて名古屋城天守閣整備事業基本計画書案を7月に提出しようとしたしましたが、その内容のうち、石垣の保全方針について有識者と認識の一致をみていないことを文化庁から指摘されたことにより、基本計画書案の提出を見送りました。その後においても基本計画書案の提出には至っておらず、現状変更許可の取得に向けて努力を続けている最中でございますので、補正予算案の上程ができませんでした。

工事につきましては、現状変更許可が前提となりますので、確実に現状変更許可がいた

ける見込みとなり次第、補正予算の上程を進めてまいります。

10月の文化審議会に諮るためのスケジュールでございますが、現在、有識者からいただいた課題を解決するため、石垣の評価や、保存対策について、再検討を行い、今後実施する調査に基づき、特に、北面のハラミ等緊急性の高いものについては優先的に対応するなど、石垣保全方針を見直しているところでございますが、9月下旬となり、10月の文化審議会は時間的に大変厳しい状況でございます。

従って10月の文化審議会に間に合わせるスケジュールの根拠については、現時点ではお答えすることができませんのでご理解賜りたいと存じます。

続きまして10月の文化審議会に諮られなかった場合の完成時期についてでございます。

10月の文化審議会に諮らなかった場合におきましても、文化庁から指摘された課題を解決し、できるだけ早期に現状変更許可の見通しを立て、その段階で優先交渉権者と協議し、2022年12月の木造復元天守閣竣工スケジュールを守るよう努力してまいりたいと考えていることから、現時点において竹中工務店と具体的な協議は行っておりませんので、御理解賜りたいと存じます。

以上でございます。

浅井正仁君：それぞれご答弁ありがとうございました。

続きまして名古屋城の整備について質問させていただきます。

副市長からは答弁をいただきました。6月に質問してから名古屋市は頑張ると言い張っていましたが。しかしこの3ヶ月間何も進んでいません。

変わったことといえば、6月の答弁が「厳しい状況」から、今回は「大変」がついただけです。10月に間に合わなかったときのことは何も考えていない。

昨日名古屋市は、昨日、我が党の昭和区選出西川ひさし 無駄に声のでかい。

議員が質問に対し、広沢副市長は「民間経験によると、トラブルというものは、未然に防ぐものである」と力説をされておりました。

広沢副市長、答弁を踏まえ、今後のトラブルを防ぎ、どのように努めていくのか、お答え願いたいと思います。

広沢副市長：天守閣木造復元に関わる今後のトラブル防止について再度のお尋ねをいただきました。

私の民間経験から申し上げますと、トラブルを未然に防ぐためには、関係者各位と緊密かつ真摯に話し合い、お互いに信頼関係を築くことが何より重要だと考えております。

そのような信頼関係があれば、もし問題が発生した場合にも、課題を共有し、お互いに主張すべきところは主張し、改めるべきところは改め、最終的に全員が納得できる最善の妥結に至ることが可能になるかと思います。

名古屋城天守閣の木造復元事業は、特別史跡における大規模建築物を史実に忠実に復元す

る事業であり、現在、有識者の方々より石垣の保全に対し、具体的な指導をいただいているところですので、それを踏まえながら、文化庁をはじめ有識者、竹中工務店との協議を進めていくことが重要だと考えております。

以上でございます。

浅井正仁君：綺麗な言葉がずらりと並んだような答弁だと思いました。

未然に防ぐではなくて。多分もうトラブっています。ね、副市長。トラブってます。

こっから改善していくのは皆さんの役目だと思います。

そこで、私は、昨日、元市会議員、現在、衆議院である工藤昭三衆議院議員を通じて文化庁へ確認をしました。10月の審議会、本当に諮られるかどうか聞いていただきたいと。

もちろん、名古屋市も、聞いていると思います。その答えを述べてください。

広沢副市長：お尋ねのお尋ねの件につき、文化庁に確認をいたしましたところ、工藤衆議院議員秘書からの質問に対して、「名古屋市からは申請書が出ていない。出ていなければ審議会には諮られない」と回答したと聞いております。以上でございます。

浅井正仁君：文化庁の言葉を聞いて、要は、名古屋市はすべきことをしていない。出すべき宿題を出しなさい。これが全てだと思うんですよ。ね。それも出さずに、申請とおせというのはむちゃくちゃな話です。頑張るという精神論だけでは、2022年になっただけ、これはこのまんまずっとこのまんまです。ずっと2022年、ね。このままの状態、2022年まで突き進むと思います。

質問を通じて私は担当職員の方は本当に一生懸命やっているとしました。だけどあまりにもね、仕事量が多くて。人手不足。これは否めないと思います。と同時にね、工期を守る、工期を守る、そこだけに目がいってしまい、全てを見失っているのが今の名古屋市の姿勢じゃないのかなと思っております。

この事業の意義は、先ほど副市長も言いました史実に忠実に復元することではなかったんでしょうか。

もう一度原点の気持ちに戻り、この施策を見つめ直していただきたいと思います。

そして、6月の委員会における自由民主党の要望にも関わらず、木材を拙速に買ってしまっただけで、次の5月の文化審議会を目指すとか言う前に、じっくりと腰を据えて取り組み、嘘偽りなく真実を議会並び、市民の皆さんに伝えることを要望するとともに、市長に一言言わせていただきたいと思います。

市長。職員の声を、心の叫びを聞いて、職員を信じて、進めていただきたいことを望んで終わらしていただきます。